

ひとりひとりが尊重される社会づくりのため、署名にご協力ください



アルプス福祉会では、障害福祉施策の充実を求める、「きょうされん」国会請願署名・募金運動全国キャンペーンに、毎年取り組んでいます。

日本は国連の「障害者権利条約」を批准しています。この条約に沿った世界レベルの福祉を実現するため、このように署名・募金活動をして、法制度の充実や、必要な障害者福祉予算確保を図るよう、国会議員を通じて国に働きかけていきます。

アルプス福祉会は「コロナ禍」にあっても、人権が尊重され、障害のある人が安心して生活できるような社会をめざしていきます。そのために署名・募金を集めるアクションを、2023年4月までおこなっていきます。

ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ コムハウス TEL 85-2234

ねくすと TEL 58-4631

きょうされん HP <https://www.kyosaren.or.jp>

～この街に生きる～

『他の者との平等』

先日、NHK で放映されている海外ドラマ「DOC(ドク)あすへのカルテ」(イタリア)という医療現場を描いた番組を見ていたところ、その中で医師の妹(知的障害)が入院されていて、面会に彼氏(知的障害)が訪ねて来るという場面がありました。妹とその彼氏は、医師である兄を前に「私たちは支援付きのホームで暮らそうと思っているの。兄さんに話すと寂しがると話していなかったけど」と話していました。

私はそれを見ながら、仕事柄いくつかのことを想像していました。「日本では支援付きのカップルが暮らすホームは無いな」「結婚の先に妊娠出産もあると考えると日本なら家族に反対されるかな」「生活費は足りるのかな」「二人で生活できるのかな」「日本のテレビ番組で知的障害者が役者として働く姿はみないな」等、様々考えてしまいました。その番組が制作された国の知的障害者の実態は分かりませんが、日本の障害者の実態の中では、概ね反対されることが多いだろうと言うのが私の感想でした。

日本は今、国連の障害者権利委員会から日本の障害者施策の評価や国内での障害者の状況について審査を受け、昨年9月ほどの国よりも厚い勧告文(総括所見)を受けました。この勧告文には、各国の障害者施策の評価が示されていて、その評価の指標は『他の者との平等』です。一般的な日本人の暮らしと比較して、障害のある人の暮らしが平等であるか否かということです。

知的障害のある人の収入である年金(障害基礎年金)額は、生活保護の基準より低く、相対的貧困の目安としている122万以下をも下回り90万円台です。また結婚している人の割合は、一般が96%であるのに対し30%程でさらに30代で親と同居している人の割合は、一般が17.8%に対し65.4%です。(国勢調査、国税庁の統計調べ)これらの数字が示すものは、障害のある人を支える仕組み・環境が、日本はまだまだ脆弱であるということだと思います。そして、私の中にも「障害者だから」という意識があり、苦しい生活でも仕方ないとしているのではないかと気づかされました。

『他の者との平等』、生活の様々な場面で具体的に比べてみたいと思いました。《ねくすと施設長 片桐政勝》